

県医師会理事会記事

令和2年度第9回理事会

(令和2年10月6日)

松村会長 挨拶



「バーナード・ラウン博士」

皆さん、こんばんは。今日から新しい会議形式で理事会を開催しますのでよろしく申し上げます。

さて、コロナ禍の中、神無月を迎えました。出雲では全国の八百万の神々が集まるとのことで神在月と呼ばれていることをご存知の通りと思いますが、10月はオリオン座流星群など天体ショーが楽しめる月でもあります。今日は、約2年2ヵ月ぶりに火星が地球に最接近しています。南の空に最も明るく輝く、少し赤っぽい星が火星です。火星は、今は6,200万kmかなたの星です。

さて、昨日、2020年のノーベル医学生理学賞が先陣を切って発表され、C型肝炎ウイルスを発見した3人が受賞されました。

私が医師になった頃はC型肝炎ではなくて、非A非Bと言っておりましたが、その後、今回受賞されたハーヴェイ・オルター氏が輸血後の肝炎患者から、既知の肝炎ウイルスとは異なるウイルスを発見したことに端を発して、マイケル・ホートン氏がこのウイルスを特定し、最後にチャールズ・ライス氏がチンパンジーに肝炎患者の血液を注射して、実験的にC型肝炎を作りました。

その後、飛躍的に検査法や抗ウイルス薬も開発され、現在、C型肝炎は95%以上治癒する時代となりましたので、このたび、ノーベル医学生理学賞を受賞されることとなりました。本当に素晴らしい快挙だったと思います。

ノーベル賞といえば、1985年に平和賞を受賞したIPPNW(核戦争防止国際医師会議)ですが、既に35年前のことです。バーナード・ラウン博士についてご紹介しますと、私は2011年にボストンのご自宅に碓井元会長とお伺いしたことがあります。ラウン博士は、心臓病学者で本当に穏やかな先生で片岡先生からご紹介もありましたが、除細動器を開発されたことは非常に有名です。

特に不整脈がご専門だったことでストレスが不整脈を起こすことも証明され、またジギタリス中毒が低カリウム状態で起こりやすいこともラウン博士が発見されました。

ラウン博士の「患者の話を耳を傾けなさい。70%は診断できる」との名言は、内科の父と呼ばれるオスラー博士の名言と似ています。ちなみに、オスラー博士の名言は「患者の言うことに耳を傾けなさい。診断名を言っています」です。ラウン博士も、70%は問診で診断がつくとはっきり言い切った方です。

そういったことで本日は、ノーベル賞がらみでIPPNWのことも思い合わせてお話をしました。IPPNWの活動は、私たちヒロシマの医師の使命です。

従いまして、私たち広島県医師会も広島市医師会とともに被爆地の医師会として、このIPPNWのタスキをしっかりと受け止めて、この歴史あるIPPNWの活動を続けていきたいと思えます。



バーナード・ラウン博士

協議事項

- ・ 令和3年度広島県医療行政施策提案要望の件
(松村会長)
市区郡地区医師会等の意見・要望を盛り込んだ原案の提案要望を承認。今後は事前に広島県健康福祉局の木下局長との協議を踏まえ、12月に湯崎知事へ要望する。
- ・ 令和2年度広島県医師会会費賦課徴収減免申請の件
(茗荷常任理事)
疾病減免申請2件、前期研修医申請16件の会費減免を承認

- ・ **新型コロナウイルス感染症に係る会費賦課減免申請の件** (檜山常任理事)
11件の会費賦課徴収減免申請を承認
- ・ **新型コロナウイルス感染症流行下における発熱患者の診療方法の件** (西野常任理事)
新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ同時流行に備えた対応、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザの同時抗原検査が可能となった場合の受診時の対応など、原案を広島県医師会方式として、今秋冬における発熱患者の診療方針とすることを承認

報告事項

- ・ **新型コロナウイルス感染症** (西野常任理事)
新型コロナウイルス感染症の最新状況として、9月4日付け厚生労働省事務連絡「次のインフルエンザ流行に備えた体制整備などについて」や、9月24日(木)に開催された日本医師会新型コロナウイルス感染症担当理事連絡協議会の概要について報告した。
- ・ **9月8・14・28日常任理事会報告** (茗荷常任理事)
第17回・第18回・第19回常任理事会における協議・報告事項を資料により報告した。
- ・ **会員異動(9月分)** (茗荷常任理事)
9月30日現在、広島県医師会会員は6,932名(8月より1名増)、日本医師会会員は5,662名(8月より2名増)であった。9月の会員からの届出は、入会(41件)・退会(40件)・異動(54件)であった。
- ・ **理事・監事・議長・副議長報告(コメント)**
田中信治理事
11月15日(日)、第73回広島医学会総会をハイブリッド方式で開催する。各地区医師会へも広報についてご協力をお願いする。
佐々木博理事
協議事項「新型コロナウイルス感染症流行下における発熱患者の診療方法の件」に関連し、広島県医師会方式についてのQ&Aの作成を要望する。
山根基理事
医師会専用のHMネットを使ったオンライ

ン、リアルタイムで受け入れ可能な「診療・検査医療機関」の検索システムの構築が急務と考える。

白川敏夫理事

安芸地区医師会は、行政(3市4町)と安芸地区医師会との新型コロナウイルス感染症の「診療・検査医療機関」などについて意見交換会を開催した。今のところ診療・検査医療機関として対応するが登録はしないとの立場をとる医療機関が多い感触である。また、12月に安芸医学会をハイブリッド形式で開催するので、Web参加も可能なのでご出席をお願いします。

木原幹夫理事

三原市医師会は、医師会病院内で休日夜間診療所を運営しているため、発熱患者に対する対応について検討し、県医師会の方針に則った形式で対応することを決めた。三原市は発熱患者に対応する医療機関をアンケート調査し、医療機関名を公表したが、患者が集中することが懸念される。

井之川廣江監事

役員の先生方が身を粉にして一生懸命に努められていることには唯々頭が下がる思いだが、本業を忘れることなく、県医師会役員としての会務推進に努めていただきたい。

伊藤仁監事

監事会の開催に向け日程調整が行われている。今後も監事としていろいろなことを調べていく。

松原進監事

理事会資料などを事前に確認できる環境整備について検討いただきたい。

鳴戸謙嗣議長

日本学術会議の任命拒否の問題について、広島県医師会から日本医師会へ、これは問題だと要望を挙げていただきたい。

宮野良隆副議長

尾道市立夜間救急診療所では、発熱患者への対応にバラツキがあったが、今後は新型コロナウイルス感染症も含めて診ていくこととなった。